

# あつ！ その投資をしてはいけない。

代表取締役 鈴木英介

そもそも「投資」とは何だろうか。これをはつきりさせて話を進める。広辞苑によれば「利益を得る目的で、事業に資金を投下すること」となっている。キモは「利益目的」と「資金投下」だ。この二つがそろって「投資」と言える。

資金を使わず利益だけ得るもの、資金は使うが利益を目的としないもの、この二つは投資ではない。ここで言う利益とはあくまで金銭的利益のことだ。金を使うから金で帰ってくる。たとえば週末に温泉に行つてリフレッシュした。これは精神的利益があるが、金銭的利益は目的ではないのでここで言う「投資」にはならない。また健康の

為、毎日1万歩あるく等、資金の投下のないものは含めない。

それでは、投資してはいけないものとはなんだろうか。それは「生保」と「持ち家」と「大学」だ。私の話を聞く前に、もうこのいずれかに投資してしまった方、申し訳ないがそれは失敗だ。

実はこの3つのものは個人がする出費の中で、金額の大きなものの代表格になる。持ち家とはかく、生保と大学はそれぞれの金額ではないと考える人もいるかもしれない。だが、いずれもかなりの期間支払いを継続しなければならぬ。大学の場合、在学時は軽いアルバイト以外無収入となるのでそれも考え

なければならぬ。

日本では生命保険は男で77.6%、女で81.5%の人が加入している。持ち家は全国平均で60.9%だ。大学は57.7%の人が四大卒で、短大や専門学校を入れると84%の人が高等教育を受けている。こんな状況ではどこかの市長のように、学歴詐称したくなるのかもしれない。この比率を見ると、3つがそろっていないとちゃんとした社会人ではないようだ。皆が借金しても、うそを言ってもこのエンブレムをほしがるのはわかる気がする。

とは言っても、私は「生保」と「持ち家」と「大学」を否定しているわけではない。ただこ

の3つを投資と考えるのが間違いだと言っている。

よく多額の保険料を毎月払っている人に「どうしてそんなに払うのか？」と聞くと「これは貯金と同じだ」と言う人がいる。つまり将来帰ってくるという言葉だ。それは本当のことだろうか。そもそも保険と貯蓄（投資）とは違うものだ。そのような積立型保険は保険部分と積立部分はつきりと分かれている。積立は積立で、保険は保険なのだ。月々の支払額の中でいくらが保険部分で、いくらが積立部分なのかわかってきているのだろうか。また積み立てる気があるのなら、他の金融商品と比較しないのだろうか。

持ち家はどうかだろう。家は必要だ。持っていようが、借りていようが住むところが必要だ。しかし、土地や多額の金を持っている人以外、多くの人が借金をして家を買うことになる。最近では40年ローンや50年ローンまであるという。

ローンなら金利がある。その金利はどうなるのだろうか。固定なのか変動なのか。借金を完済するまでに総額いくら払うことになるのだろうか。不動産取得税、毎年の固定資産税や建物の維持修繕費はいくらになるのだろうか。総支払額は分かっているのだろうか。そしてその価格は妥当なのだろうか。不動産は資

産になるので価値が減らないと思っている人もいる。これも間違いだ。価値は必ず減る。

そもそも不動産投資は借金しては割に合わないはずだ。うまくいっても金利程度の利回りしかないからだ。そこから借入金利を引けばトントンかマイナスだ。昔から不動産価格を時の利回りで割り出すのはそのためだ。不動産価格は金利と連動する。

次に大学である。ここに入らないと良い会社に入れないし、良い給料は貰えないと言う人がいる。しかし良い大学に入っても、良い会社や良い給料にはありつけない。背伸びして一流大学を卒業し、学生の就職希望上位の会社に入って挫折した例は山のようにある。その結果は悲惨なものが多い。

もちろん大学や高等教育は有用だ。学びたい事があれば行きたほうが良い。知識はどのような人生を歩もうと必要だし、実際の役にも立つ。しかし良い会

社に入るために良い大学に入るとは考えないほうがよい。学問は投資にはならない。

しかしそのような話はしよせんきれいごとであって、多くの一流会社は大学名で学生を選別しているのではないかと人は言う。確かにその通りである。しかし有名大企業は応募者が多いので大学名で一次の選別をしているだけだ。そして入れた後で本当の選別にかけるのだ。

多くの大学は入ってしまったら卒業できるので、同じように企業も入ってしまったら順調に給料がもらえる、多くの学生は誤解している。実際はそんな甘いものではない。大学は金を払うところ、会社は金をもらうところだ。立場が全く違うのだ。

企業も無駄金を使うわけにはいかない、厳しいフルイが待っている。多くの会社は仕事ができないからと言って給料を下げたりせず、厳しくしごいてやめるように促すのである。こ

の厳しさは給料の高さに比例する。そうやって多くの社員を辞めさせ、求める人材を残すのだ。たとえそこで選別に残ったとしても、その厳しさは会社にいる間は続く。

そして大企業では、最初からやめる人数を見込んで募集をかける。それに対して我々中小企業は、入ったからには辞めてもらっては困る。募集の考え方が違う。採用基準も能力の前に「辞めない人」となる。この違いについて就職を考えている人は押さえておく必要がある。

ここまで述べてきたことは人生の投資についての考え方である。投資であれば利を見込まなければならぬ。ちゃんと計算しなければならぬ。最初に述べたように、利がないならそれは投資ではない。「寄付」のようなものである。

世の中には小さな財布の中から寄付を行う善人が多いように思うのは私だけだろうか。

